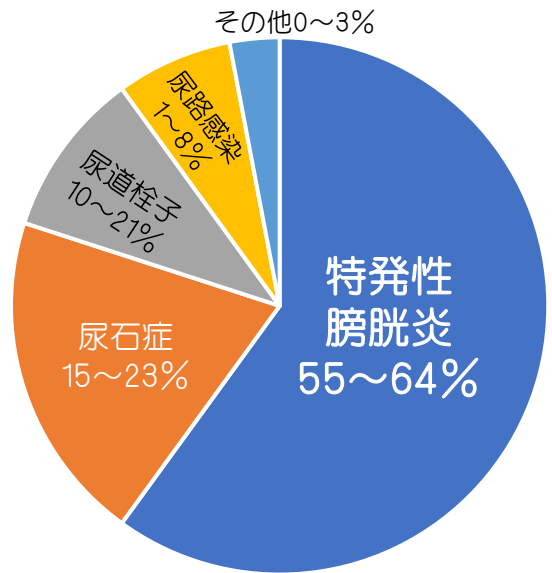


特発性膀胱炎とは

猫の下部尿路疾患(FLUTD)の中で特に大きい割合を占めるのが特発性膀胱炎です。

【特発性】とは尿検査や画像検査等を行っても原因が特定できないことを指していますが、ストレスが原因になっていることが分かってきています。



《症状》

- 頻尿
- 血尿(薄いピンクっぽい尿)
- トイレ以外での排泄
- 陰部を舐める
- 腹部の違和感からお腹を舐めて脱毛
- 食欲や元気の低下

《猫ちゃんがストレスに感じやすい事》

- ✓ 来客時に隠れる場所がなく、他人に見られること。
- ✓ ノラ猫がお家の近くにいる・声がする。
- ✓ 工事などの騒音
- ✓ 過剰なスキンシップ
- ✓ トイレへの不満(場所、大きさ、砂の種類などが気に入らない)
- ✓ 家庭環境の変化(赤ちゃんが産まれた、好きな家族との離別など)
- ✓ 気温の変化、天候
- ✓ 同居動物との不仲



《治療》

■ 内科治療

消炎剤、抗菌剤などで膀胱の炎症を沈めて修復を待ちます。

■ 食事療法

特発性膀胱炎は原因が分かりにくいいため再発が非常に多いです。

尿石症に配慮した療法食の内、ストレス緩和のための加水分解ミルクプロテインやL-トリプトファンを配合したものは特発性膀胱炎に有効です。

■ サプリメント

前述の加水分解ミルクプロテインやL-トリプトファンがカプセルに入っているサプリメントや、膀胱粘膜の修復に役立つ成分とL-テアニン(緑茶抽出物)が配合された液体のサプリメントがあります。

多頭飼育で食事の変更が難しいご家庭におススメです。

■ 環境を整える

猫ちゃんが何にストレスを感じているかを知るには、一番近くで見ているご家族がキーマンです。

隠れ場所を作ってあげる、構いすぎないようにするなど心当たりがあれば改善してみましよう。

一般的にトイレは広く(体長の1.5倍程)、細かい猫砂で、アクセスがよいものが好まれます。複数箇所あると猫ちゃんも安心しやすいです。

■ 肥満に気を付ける

肥満も下部尿路疾患の原因の一つとして挙げられます。